



あかねさす 紫野行き 標野(しめの)行き  
野守(のもり)は見ずや 君が袖ふる

5月の万葉集 巻1-20 額田王

(茜色のあの紫草の野を歩きその御料地の野を歩いてるとき  
野の番人は見ていないかしら ああ あなたそんなに袖  
を振ふらないでよ)

## 「啐啄同時」という禅の言葉を意識して!

風薫る5月、馬見丘陵を吹き抜ける風がさわやかにほほを撫で、周りに目をやると若葉の新緑が目鮮やかな季節となりました。ゴールデンウィークも終わり、新学期が始まってから1か月となり、学校園では本格的に教育活動が進められています。

新型コロナウイルス感染症の状況も、落ち着いては来ているものの、下げ止まりの状況が続いており、学校園では、これまでと同様、徹底した感染防止対策を講じながら、ウィズコロナを目指して、できる限り通常に学校行事、園行事等を進めていきたいと思っています。

ところで、私の自宅は、馬見丘陵公園北エリアの近くにあり、小さい頃から、大自然の中で育ちました。今で言う「里山」のような雑木林があちこちにあり、そこに生息する虫や鳥、植物などに興味を示し、特に昆虫採集に没頭し、中でも蝶やトンボの標本づくりに興じていました。そんな自然環境の中、今も道を挟んで家の横の池には、何種類もの鳥が水浴びをしたり、餌である小魚を捕らえに来ています。中でもここ数年、春から夏に見かけるようになった「飛ぶ宝石」と称される翡翠色(ひすい)のカワセミや大型のサギの仲間であるアオサギなどを見て感動を覚えています。

そのような鳥たちを見て、ふと、「啐啄同時」という禅の言葉が心に浮かびました。ヒナ鳥が生まれ出るとき、内側からついて卵を割ることを「啐」といい、同時に親鳥も外側から殻をつついて破ることを「啄」といいます。親子の共同作業で殻が破れ、ヒナ鳥が誕生するのです。野鳥は巣立ちのときにも、「啐啄同時」を発揮するというのです。この「啐啄」の元々の意味は、禅宗において、今まさに、悟りを得ようとしている弟子に、師匠がすかさず教示を与えて悟りの境地に導くことをいい、何かをするのに絶妙なタイミングを、「啐啄同時」といいます。

人間の一生にも、また子育てにも「啐啄同時」の機会が何度かあるように思います。親の働きかけと子どもの自発性が一致したとき、教育効果が大きくなるのですが、子育てにおいては、鳥の親子ほど明確にその時期が分かるというわけではありません。子どもをしつける時期や自立させる時期に悩みながら、「今だ」と思って働きかけても、子どもの心に響かなかつたり、子ども



が自分の力でやり遂げたいと思っても、心配な親が干渉し過ぎたりということ、うまくいかないことが多々あります。

どのようにすれば、「啐啄同時」の時期を見極めることができるのでしょうか。人間社会は、何かと複雑すぎて名案などないのですが、子どもを十二分に理解すること以外ないように思います。子どもの持って生まれた性格や様々な体験の多さ少なさ、心の在り方など、子どもの心身の発達の様子をこと細かく理解することで、「啐啄同時」の時期が見えてくると思います。

親がしつけるタイミングと子どもが納得するタイミングが合致したとき、親子の心が通じ合っただけでなく、世の中すべての人間関係においても、協力、協働、助け合いなど、人と人のつながりとそれぞれのタイミングが合ったときすくすく大きな力が発揮されると思います。親子関係はもちろんのこと、広陵町自治基本条例のキーワードとなっている「協働」と「参画」とも相通ずるのではないかと思います。この言葉を意識して「町民のために」、「子どもたちのために」過ごしていけたらと思います。



## 「学習意欲がわからない」が年々増加傾向!

「子どもの学習意欲」について、東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が調べた共同調査で、「勉強しようという気持ちがわからない」と答えた割合が小学4年から高校3年で半数以上を占めることがわかりました。新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年から3年間で年々増加しています。

調査は両研究所が平成27年から、小学1年から高校3年を対象に毎年同じ親子に継続して「子どもの生活と学びに関する親子調査」がされています。学習意欲の変化については、小学4年から高校3年の児童生徒約1万人が調査の対象になっています。

昨年の調査で「勉強しようという気持ちがわからない」とう質問で、「とてもあてはまる」「まああてはまる」と回答した児童生徒が**54.3%**、令和2年は**50.7%**、令和元年は、**45.1%**でした。

学校の段階別では、小学4年～6年が**43.1%**、中学校が**58.6%**、高校が**61.3%**と学年が上がるにつれて高い値を示しています。3年間で学習意欲が向上した子どもは**11.2%**、低下した子どもは**25.8%**でした。

学習意欲の低下については、休校や活動制限など、「コロナ禍の影響」が一定程度あり、友達との関わりが少なくなったり給食が黙食になったり子どもたちの学校での楽しみが減っていることも関係しているのではないかと報告がされています。



# 教育委員会の取組

## 教育振興基本計画、教育大綱の冊子できる！

「広陵町教育振興基本計画」は、教育基本法に基づき、広陵町の長期的な教育方針及び教育施策を示し、本町での幼少期からの継続的な学びを通して、Society5.0の社会を生き抜くことのできる次世代の人材育成をめざすものです。

また、「広陵町教育大綱」は、平成28年度に策定してから5年が経ち、教育理念として「**輝く未来のために ともに学びつながり合う いい人づくり**」を掲げ、その実現を目指して見直したものです。

ちなみに、教育振興基本計画は、国、県の上位計画を踏まえ、より実効性の高いものにするために、昨年8月より今年2月まで、4回の策定委員会とパブリックコメントを経て完成しました。



これらの教育大綱・教育振興基本計画・教育振興基本計画概要版は、広陵町ホームページの左にある教育委員会のバナーをクリックしていただき、続いて教育施策・方針のバナーをクリックしていただいたらPDFに加工したものを貼り付けていますので、是非見ていただければと思います。

## 広陵放課後塾が6月1日(水)に開講！

広陵放課後塾は、学力向上推進支援事業の一環として、学力的につまずきが始まる小学校3年生を対象として、宿題を基本に基礎学力の定着や児童の学習意欲の向上を図るもので家庭学習の支援を目的としています。

令和元年に東小学校をモデル校としてスタートし、令和2年には北小学校と真美ヶ丘第一小学校にも拡大して開講する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大で開講できず、それに替わるものとして、9月から土曜塾の名称で役場3階で実施しました。そして、昨年は町内すべての学校で9月から実施しました。今年度は、少しでも早く放課後塾を進めようと、参加する3年生の募集も4月末から行い、今現在、107名と昨年の83名よりかなり多い参加状況になりました。

また、これまでと同様の手厚い措置として、児童3～4名に1人の指導員を確保して、6月1日(水)の開講に向け、鋭意準備を進めています。



昨年の放課後塾の様子

## 自転車安全教室で、プロのスタントマンが！

4月20日(水)、広陵中学校において、1年生を対象とした自転車安全教室が開催されました。例年であれば、警察署の交通安全担当の方からの教室となるのですが、今回は奈良県警察とJA奈良県本部の共催により、プロのスタントマンが実際に発生した自転車と車での事故例を再現した大がかりな内容でした。



富田校長のあいさつ

が送られました。

また、香芝警察の中西署長からは「中高生では自転車事故が最も多く、安全確認をしない、交通ルールを守らないことが事故の原因となっている。今日の教室で学んだことをこれからの生活に活かしてほしい」とのあいさつがありました。



スタントマンがはね飛ばされた様子

続いて、香芝警察の交通安全担当者からの交通安全指導がありました。そして、いよいよプロのスタントマンの事故例の再現が始まりました。まずは、時速40kmで走行する車が、前を自転車で走っている人に追突したときの様子が再現され、人が自転車からはね飛び、車のボンネットからフロントガラスに強い衝撃でぶつかった時には、生徒たちをはじめ、見ていたすべての人からどよめきが起こりました。

その後、携帯電話・ヘッドフォンを使用しての乗車、傘をさしての走行、並列走行など交通ルールを守らないことで加害者にも被害者にもなる事例の再現、また、大型自動車の内輪差から生じる巻き込み事故の再現など、スタントマンの迫真の演技に生徒たちも真剣な表情で見聞きし、交通ルールを守ることの大切さを学んでいました。



大型車の巻き込み事故再現の様子

## 今月の一言

### 己を責めて人を責むるな

徳川 家康

失敗には当然失敗に至る理由があるわけですが、「〇〇さんのせいで失敗した」といった具合に、他人に失敗の理由を転嫁しがちです。しかし考えてみると、最終的に決断したのは、あくまで自分自身だということを考えなければなりません。人を責める前に、自らの判断ミス責めるべきだと思います。

